

調査研究および情報提供事業等に必要な経費

情報センター事業費

1. 催し等事業費

- (1) 企画開発セミナー

2. 文化資料事業費

- (1) 機関誌
- (2) 事業報告
- (3) インターネット・ホームページ

3. 調査研究費

- (1) 図書館運営
- (2) 国際交流基金賞・国際交流奨励賞
- (3) 地域交流賞
- (4) 調査研究

1. 催し等事業費 (1)企画開発セミナー

国内の国際交流活動の振興と国際交流団体のネットワーク化を目的とした各種セミナーを開催する。

合計額 17,471,767円

	事業名	期間	事業内容
1	国際交流フェスティバル参加	04.04.01～ 05.03.31	全国各地で開催される国際交流フェスティバルへの参加を通じて、国際交流基金事業の広報および国内団体との連携を深めた。具体的には札幌、東京（武蔵野）、さいたま、名古屋、大阪（2カ所）、長崎の計7カ所での国際交流フェスティバルへ参加した
2	平成16年度国際交流セミナー「今、なぜ新渡戸か？～『武士道』そして五千円札の顔国際シンポジウム」実施決裁	04.06.19～ 04.06.19	国際連盟の初代事務局長として活躍した新渡戸稲造は、ユネスコの前身である国際知的協力委員会を創設し、世界平和に貢献した国際人として知られている。また、国際知的交流委員会の国内委員会は基金の前身ともいえる国際文化振興会の設立の大きな影響を与えた。国際情勢が厳しい現在、次代を担う若い世代に新渡戸のメッセージを伝えることを目的として、世界平和の構築に貢献する5団体が連携して実施した
3	「学校の現場から国際教育活動を見直す～日本および海外双方の視点から」	04.06.26～ 04.06.27	海外初中等教育レベルの日本語教育現場における対日関心と、国内初中等教育レベルにおける外国語教育や国際理解教育の現場を結び付け、青少年の国際交流を促進することを目的として国際シンポジウムを開催した
4	日・EU市民交流セミナー～日本とEUの新たな出会い	04.07.01～ 04.07.01	2005年の「日・EU市民交流年」に向け、日本とEU加盟国間の市民交流を広く促進させるため情報提供、交流の多様な事例を紹介するとともに、EU関係者と国内の国際交流関係者が情報交換、意見交換を行なう機会を設けた
5	「第2回国際交流・協力実践者全国会議」	04.08.28～ 04.08.29	国際交流・協力の現場に携わる全国の関係者が一堂に会して、国際交流・協力活動の現状認識を共有するとともに、問題意識を深めつつネットワークを構築することを目的として開催。また、日本社会全般に、国際交流・協力活動の意義を広くアピールした
6	シンポジウム「地球が舞台～地域文化と国際交流を考える」	04.11.20～ 04.11.20	平成15年度に国内3カ所で開催した「地球が舞台」プロジェクトの総括
7	ワンワールドフェスティバル	05.02.05～ 05.02.06	国際交流・協力活動のさらなる促進のため、講演会、パネル・ディスカッション、ワークショップ、活動紹介など多様な実施形態により、多くの市民、多様なセクターの関係者が参加できる機会を提供するとともに、ネットワーク構築を目指して開催される事業に対し、企画開発型助成方式により実施
8	国内連携促進のための意識調査	05.02.15～ 05.03.31	国内連携を促進するにあたり、国内連携重点地域および主要2都市における、基金の活動に対する認知度などの基礎情報をマーケティング調査を実施し、動向の分析を行なった

情報センター事業費

2. 文化資料事業費 (1) 機関誌

月ごとの事業情報を提供する広報誌『基金ニュース』や、広く国際交流に関心のある学者、芸術家、一般を対象とする和文の機関誌『国際交流』を発行する。

合計額 60,987,178円

	資料名・書名	発行日	発行部数	事業内容
1	国際交流104号	2004.07.01	5,000	第一法規株式会社より600円(税込)で発売。(季刊、88頁、カラー・白黒) 特集テーマ「変容する家族」(監修:猪木武徳)
2	遠近1号	2004.10.01	5,000	より国際交流基金事業に即した内容にリニューアルした。 山川出版社より525円(税込)で発売。(隔月刊、72頁、カラー・白黒) 特集テーマ「文化の力 交流の営み」
3	遠近2号	2004.12.01	5,000	特集テーマ「アジアはいま」
4	遠近3号	2005.02.01	5,000	特集テーマ「変わる日本-世界に開くコミュニティ」
5	遠近4号	2005.04.01	6,000	特集テーマ「アメリカと向き合う」 (平成16年度内は発行準備作業)
6	英文ニュースレター Vol.30-1	2004.10.01	5,000	2002年4月発行を最後に休刊していた英文ニュースレターを再発刊した。日本の文化情報、国際交流の促進に資する情報、国際交流基金事業に関する情報を紙媒体および電子媒体にて発行(隔月刊、8頁、二色刷り、無償) 巻頭インタビューは、ドナルド・リチー氏(映画評論家・米国)
7	英文ニュースレター Vol.30-2	2004.12.01	5,000	巻頭インタビューは、イラクの劇団アル・ムルワッス俳優
8	英文ニュースレター Vol.30-3	2005.02.01	6,000	巻頭インタビューは、高良倉吉氏(琉球大学教授)
9	英文ニュースレター Vol.30-4	2005.04.01	6,000	巻頭インタビューは、マクルフ・ジャムハリ氏(国立イスラム大学・インドネシア) (平成16年度内は発行準備作業)

2. 文化資料事業費 (2) 事業報告

年度ごとに総括を報告する年報を発行する。

合計額 37,234,768円

	資料名・書名	発行日	発行部数	事業内容
1	和文年報2002	2004.04.01	2,500	国際交流基金の2002年度(平成14年)事業に関する和文年報の作成
2	英文年報2002	2004.09.01	1,300	国際交流基金の2002年度(平成14年)事業に関する英文年報の作成
3	和文年報2003	2004.10.31	2,000	国際交流基金の2003年度(平成15年)事業に関する和文年報の作成

	資料名・書名	発行日	発行部数	事業内容
4	英文年報2003	2004.12.31	1,300	国際交流基金の2003年度(平成15年)事業に関する英文年報の作成

2. 文化資料事業費 (3) インターネット・ホームページ

ホームページを通じて、プログラムガイドラインや基金の各種出版物も含めた当基金の各種事業の情報や、国際文化交流に資する各種情報の提供を行なう。

合計額 14,628,965円

	事業名	期間	事業内容
1	国際交流基金 ウェブサイトの 運営	04.04.01～ 05.03.31	国際交流基金に関する各種情報、国際文化交流関連各種データベース、国際交流基金公募ガイドライン等をインターネット上で提供 URL： http://www.jpf.go.jp/

3. 調査研究費 (1) 図書館運営

平成16年10月に旧アジアセンター・ライブラリーを統合し、本部図書館の情報収集・提供機能の強化に努めた。国内・海外のジャパンファウンデーション図書館との連携強化のため、電子メディア共同利用等の調整を行なった。

合計額 67,921,197円

	事業名	蔵書数	入館者数
1	図書館運営	蔵書約54,000冊 雑誌570タイトル、新聞37誌を定期購読	7,929名

3. 調査研究費 (2) 国際交流基金賞・国際交流奨励賞

学問、芸術その他の文化活動を通じて、我が国に対する諸外国の理解あるいは日本人の対外理解を深め国際相互理解を増進することにより、国際文化交流に特に顕著な貢献があった個人、団体等に対しその功績を顕彰する。

合計額 25,476,574円

	種別	受賞者(現職)・ 受賞団体	国	受賞理由
1	国際交流基金賞	穂吉敏子(ジャズピアニスト・作曲家)	日本	ジャズの分野で演奏家、作曲家、およびバンドリーダーとして多大な業績をあげるとともに、音楽活動を通じて20世紀以降に人類が置かれた状況を問い、平和と協調のメッセージを世界に発信してきた功績に対し、国際交流基金賞を授賞した

情報センター事業費

	種別	受賞者（現職）・ 受賞団体	国	受賞理由
2	国際交流奨励 賞・文化芸術交 流賞	ジェームズ・ク ワント（シネマ テーク・オリエ ンタリオ シニ ア・プログラ マー）	カナダ	北米地域において、他の文化圏、特に日本の映画の上映会や出版物の刊行を通して、日本の優れた映像文化の研究と紹介に顕著な業績をあげてきたことに対し、国際交流奨励賞・文化芸術交流賞を授賞した
3	国際交流奨励 賞・日本語教育 賞	李徳奉（同徳女 子大学校 外国 語学部教授）	韓国	日本語教育学の分野において先駆的な業績を挙げ、多くの後継者の育成に努めるとともに、韓国日本学会会長などの要職を歴任し、韓国における語学教育政策の形成にも優れた寄与をしてきた。その活動は、韓国と日本の人々の相互理解促進に大きな貢献をなすものであり、国際交流奨励賞・日本語教育賞を授賞した
4	国際交流奨励 賞・日本研究賞	高良倉吉（琉球 大学法文学部教 授）	日本	アジアという広い視野から沖縄の歴史を考え、海外の研究者とのネットワークの構築を通して先駆的な研究活動を展開している。その成果は、アカデミズムの枠を超えた広範な層に影響を与えるとともに、日本の将来像を考究する上で多くの示唆に富むものであり、国際交流奨励賞・日本研究賞を授賞した

3. 調査研究費 (3) 地域交流賞

国内各地で行なわれている地域に根ざした国際交流活動を振興するために、この分野で活躍している国内団体、個人を顕彰する。

合計額 11,233,402円

	受賞団体（代表者）	所在地	受賞理由
1	戸沢村国際交流協会 会長 芳賀欣一	山形県	韓国農村との草の根交流を契機として結成。共に楽しく暮らすことをめざし、地域ブランドの開発に取り組んだ
2	特定非営利活動法人セカンドハンド 会長 新田恭子	高知県	市民から提供された衣類や生活用品を販売し、その収益によりカンボジアでの学校建設等の支援を行なった
3	長崎国際交流塾 塾長 牛嶋洋一郎	長崎県	文化財である洋館「地球館」を拠点とし、留學生が主体となり「ワールドフーズレストラン」の運営などを行なった

3. 調査研究費 (4) 調査研究

国際交流の促進に資する各種調査研究を行ない、この成果を広く内外に公開する。

合計額 1,558,021円

	事業名	国	期間	事業内容
1	概観国際交流調 査	日本	04.04.01～ 05.03.31	国内の国際交流活動をセクター毎に網羅的に調査し、課題別の分析等を実施するための準備を行なった